

## TRANSITION TO HEALTH (120)

### “ 新型コロナウイルス感染 ④6 ”

#### ～ 最終章 ① “厚労省提訴される” “ワクチン不妊症” ～

#### はじめに

新型コロナウイルス感染症対策におけるマスクの着用について、日本政府は「令和5年3月13日以降、個人の主体的な選択を尊重し、着用は『個人の判断に委ねる』ことになると発表した。また、5月8日からは「感染症第5類」に移行・格下げされる予定である。この3年間「陰謀論・デマ」と誹謗中傷され続けてきた、ワクチンメーカーと利害関係を有しない世界中の良識ある科学者・研究者・医師らが“ワクチン慎重論”を唱え、「接種すればするほど感染しやすく、重症化する。ワクチン接種が変異株を生む。ワクチンでは集団免疫は得られない。」と警告を発してきたが、現在ではそれらすべてが



「事実・真実」であることが判明してきた。mRNA ワクチンの接種で“血栓症”“免疫異常”をきたし、心不全・脳卒中・自己免疫疾患・基礎疾患の重症化・急激な癌（ターボ癌）の発症につながる。また、スパイク蛋白が全身の細胞の「急激な老化」をもたらし、『寿命短縮の時限爆弾』といえる。日本政府・厚生労働省には早期の「謝罪と政策転換」を求めたいものである。

#### ワクチンのスパイクタンパクで高齢者の“心不全増加”？

4日前（03.01）、NHK テレビの『クローズアップ現代』：‘急増「心不全」が危ない！ “不治の病”回避最前線’を視聴させていただいた。本来は致死的感染症の拡大を表す“パンデミック”という言葉を用いて「心不全パンデミック」と表現し、心不全医療の危機を訴えていた。この放送内容は良識あるワクチン慎重派の眼には、コロナワクチンの薬害を隠蔽する方向に働いてしまうのではなかろうか？と映ったことであろう。日本の高齢者の9割以上はワクチンを複数回接種しており、本当は、ワクチン接種由来のスパイクタンパクによる「薬害としての心不全」が増加しているのではなかろうか？（個人的見解）。

#### 世界で報告されるワクチン接種による死亡、そしてワクチン接種中止へ

昨年‘22年9月にワクチン接種の推奨を中止しているイギリス政府は先月、新型コロナ死亡者の9.2%はワクチン接種者と判明した（92% of Covid Deaths Are ‘Fully Vaccinated,’ Government Study Finds（23.2.24））と公表していた。いわゆるコロナ死亡者の10人中9人が2回～4回接種していたのである。さらに、イギリスの国民保健サービス（NHS）は、2020年3月から2021年8月25日までの18か月間を対象としたデータから、「コロナウイルス感染による死亡者数よりもワクチン接種による死亡者数の方が8倍多かった」と公表（Covid “vaccines” found to be EIGHT TIMES deadlier than the disease itself-government data（23.03.01））。また、ドイツ政府は、「mRNA ワクチンは人々の心臓や脳への悪影響が大きく『史上最も致命的なワクチン』である」と宣言した（Germany Declares mRNA Jabs Are ‘Deadliest

Vaccines in History' (23.03.01)。今では、イギリスだけでなくフランスでも、ワクチン接種は中止されている。米国では、mRNA ワクチンを接種した人が献血することを「犯罪とする」法案を提出した州まで出てきている。日本政府・厚生省は、接種後死亡事例・ワクチン薬害死に真摯に向き合うことなく、一体いつまで、接種を続けるつもりなのだろうか？

## 政府・厚生省は**隠蔽**、推進派は**沈黙**、京大・福島名誉教授：政府・厚生省を**提訴**

日本政府・厚生省は 2021 年秋以降、ワクチンの薬害死などに関する重要なデータを隠蔽しているようだ。また、2022 年 12 月の超過死亡の統計が発表されたが、超過死亡の増加の原因をワクチン接種以外に求めることができず、政府・厚生省もマスメディアも、推進派の専門家・医師らも皆、コメントできずに沈黙しているようだ。日本の良識あるワクチン慎重派の科学者・医師も黙っているわけではない。先月 2 月 2 日、**司法記者クラブ**において、「ワクチン接種による致死率」の開示を求めて、京都大学名誉教授の福島雅典氏が政府・厚生省を**提訴**し、「新型コロナワクチンによる害は**世界的な問題**である」「**日本国家の危機**である」と警告したと、海外メディアは報じていたが、日本のメディアはおそらく一切報じていないであろう（3月5日現在）（[Japanese scientist warns: COVID vaccine harms are now a global problem.](#)）。命を懸け、勇気をもって真実を訴える医師・科学者は、初めのうちは誹謗中傷されたり、異端者扱いされるもの、福島先生には是非頑張って頂きたい。



## mRNA ワクチン接種による“不妊症”・・・デマではなかった！

ゲイツ財団の関係者が、新型コロナのmRNAワクチンは「**人類を不妊化するための『中絶薬』として設計されている**」ことを認めた（Gates Foundation Insider Admits Covid Vaccines Are ‘Abortion Drugs’ To Depopulate the World (2023.03.03)）。これをメディアに登壇する有識者たちは陰謀論として嘲笑・無視するであろうが、「陰謀論＝デマ」とは限らないのである。「**陰謀論＝事実論・真実論**」であった事例を、私は 2009 年 4 月以降、いくつも確認してきた。

### ◆ 日本の”出生率低下”の陰に・・・COVID-19 ワクチンの影響が？

厚生省は 2 月 28 日、人口動態統計の速報値を公表した。2022 年の出生数は**過去最少の 79 万 9728 人**で、統計を取り始めた 1899 年以降、初めて 80 万人を割ったという。この出生数の減少は 7 年連続で、前年より 4 万 3169 人 (5.1%) も減少していた。2021 年に引き続き、新型コロナウイルスの感染拡大により「**出産を先送りする『産み控え』**」などが影響したとみられる」と日本のメディアは報じていた。しかし、日本の数十年間に及ぶ少子化対策の問題（失策？）と「**婚姻数の減少**」「**産み控え**」だけが、（いわゆる）**コロナ禍**における今回の**出生数減少**の原因であるとは考えにくい（個人的見解）。少子化問題が全くなかったヨーロッパ諸国でも、出生数の激減現象が起こっているのである。

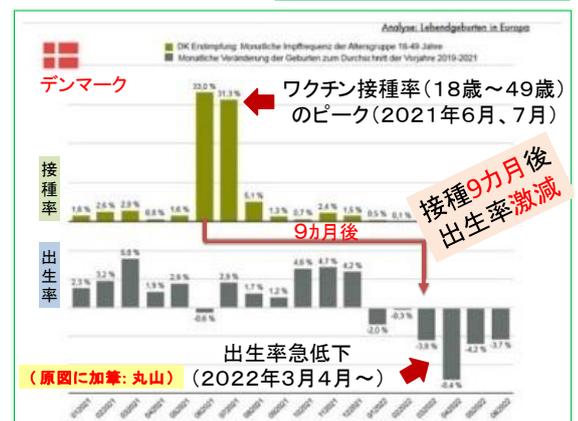


### ◆ ヨーロッパの 19 か国・・・ワクチン接種9カ月後から出生率激減

世界中の多くの国々で、COVID ワクチン接種のピークから 9（～11）カ月後に出生数が急激に減少している。また、COVID の発生以来、世界中の政府が報告していたはずの重要な統計データが、最近では日本を含め、更新されなくなってきた。意図的に隠蔽していると思われる。

右図はヨーロッパ 19 か国の出生率の変化に関するデータをまとめた論文からの引用である。

調査対象の全ての国で、**出生率**が前年同月比において“**増加から減少**”に転じており、その変移点は、2020年春から初夏にかけての“**ワクチン接種のピークから9カ月後**”以降の2021年の年末でほぼ一致している。右のグラフは**デンマーク**の例であるが、他の18か国のグラフも同様のパターンを示していた。スウェーデンでもイギリスでも同様に出生数が減少している。2022年9月5日以降、ワクチン接種を推奨していないイギリスでも、前年同月比で1か月当たりの出生数は平均4,913の**マイナス**であり、未だ**回復の兆しが見られていない**ようだ。



### ◆ mRNA ワクチンの成分は**卵巣・精巣**に集積し、**不妊症**を引き起こす

COVID-19 ワクチンの**脂質ナノ粒子 (LNP)**が**卵巣・精巣**に集積し、スパイクタンパクが生殖細胞を損傷し、精子数減少・運動能低下、月経異常・流産・死産をもたらす。米国政府のワクチン有害事象報告システム (**VAERS**) に報告された30年間の全ての単一ワクチンの有害事象：**流産の76%**は、**COVID-19 ワクチン承認後の2020年12月以降**に発生している。

**おわりに** もう、COVID-19 ワクチンの接種はやめよう！！

(理事長・医師 丸山正明)